

第2章 応用編

— TeX で出版物を作りましょう！ —

2.1 文書の構造

2.1.1 ドキュメントクラス

これまで、ファイルの先頭に `\documentclass{ }` のような宣言をしてきましたが、TeX では、最初に必ず文書の種類を指定しなければなりません。`{ }`の中には、作成する文書の用途によって以下のような指定を入れます。

欧文 (標準)	和文 (標準)	用途
article	jarticle	論文、レポート
report	jreport	長い報告書
book	jbook	本

2.1.2 ドキュメントクラスのオプション

ドキュメントクラスでは、文書の種類だけでなく、オプションとして、文字サイズ、用紙サイズ、段組みを指定できます。指定するには、`\documentclass[a4j,twocolumn]{jreport}`のように、角かっこ [] を使います¹。

文字サイズ

- (10pt) 指定なしの場合、ほぼ 10 ポイント
- 11pt 本文の文字サイズを 11 ポイントにする
- 12pt 本文の文字サイズを 12 ポイントにする

用紙サイズ

- a4paper A4 判 (210mm × 297mm)
- a5paper A5 判 (148mm × 210mm)
- b4paper B4 判 (257mm × 364mm)
- b5paper B5 判 (182mm × 257mm)

旧版の日本語 L^AT_EX で使えたオプション (`a4j,a5j,b4j,b5j`) を使うと、左右の余白が少なくなります。

¹複数のオプションを指定する場合、カンマで区切ります。この時順番は関係ありませんが、前後に空白を入れてはいけません。